

研究・調査報告書

報告書番号	担当
522	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p style="text-align: center;">Effects of Single and Combined Administration of Fermented Barley Extract and γ-Aminobutyric Acid on the Development of Atopic Dermatitis in NC/Nga Mice</p> <p style="text-align: center;">NC/Nga マウスにおけるアトピー性皮膚炎進行への発酵オオムギ抽出物とγ-アミノ酪酸の単独及び複合投与の影響</p>	
執筆者	
HOKAZONO Hideki, OMORI Toshiro, HOKAZONO Hideki, ONO Kazuhisa	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<i>Biosci Biotechnol Biochem</i> , Vol.74 No.1 Page.135-139 (2010)	
キーワード	
オオムギ焼酎、発酵オオムギ抽出物、アトピー性皮膚炎	
要 旨	
<p>著者らは、NC/Nga マウスにおいてオオムギ焼酎醸造副産物から調製した発酵オオムギ抽出物 P(FBEP)とγ-アミノ酪酸(GABA)の単独および複合投与のアトピー性皮膚炎(AD)様皮膚病変への影響を調べた。FBEP および GABA の単独投与はマウスにおける AD 様皮膚病変の進行を用量依存的に軽減した。GABA は血清イムノグロブリン E (IgE) と脾臓細胞のインターロイキン(IL)-4 の産生抑制によって AD 様皮膚病変の進行を軽減したが、FBEP は IgE またはサイトカイン産生に影響を与えることなく皮膚病変を軽減した。しかし、AD 様皮膚病変を誘導したマウスにおいて、FBEP と GABA の複合投与は血清 IgE 濃度と脾臓細胞 IL-4 産生を減少させ、脾臓細胞のインターフェロンγ産生を増加させた。これらの結果は FBEP と GABA の複合投与が Th1/Th2 のバランスを Th1 優位な免疫反応に調節することによって、NC/Nga マウスの AD 様皮膚病変を軽減したことを示唆している。</p>	